

第5期雄武町総合計画後期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	2	ぬくもり・雄武		整理番号	34
基本施策	10	地域福祉の推進	評 価 責 任 者	保健福祉課長 豊田 通敏	
単位施策	2	ボランティアの育成とネットワーク化の促進			

1 施策の概要

基本方針	ボランティアの体験教室や研修会、交流会の充実により、ボランティアの掘り起こしや資質向上を進めます。また、ボランティア情報の提供や、ボランティア同士の横のつながりをコーディネートし、ボランティアネットワークを強化します。				
現状と課題	【現状】（平成23年度末）	【現状】（平成26年度末）			
	地域福祉の組織的な担い手である社会福祉協議会をはじめ、民生児童委員、ボランティア団体等が連携して活動しているが、近年、地域自治会・高校生・事業所等が国道花壇整備、事業所の老人福祉施設清掃などのボランティア活動等が広がってきている。	教育委員会では読み聞かせやスキー指導、学習支援を行う学校支援ボランティアを募り活動をおこなっている。社会福祉協議会においては個人ボランティアを募り、雄愛園祭りやふれあい広場など協議会事業活動に参加している。また、社会福祉協議会では町内の小中高校のボランティア活動を推進するための助成を行い、各学校において町内の清掃活動や地域イベントへの参加、花壇作り等がおこなわれている。			
	【課題】（平成23年度末）	【課題】（平成26年度末）			
	近年、地域自治会・高校生・事業所等のボランティア活動が広がりをみせているが、今後、地域の高齢化に伴い連携した活動が求められるなか、地域の社会資源を活用したインフォーマルサービスとの連携により、ニーズに応じた多様な支援を行う必要がある。	教育委員会、社会福祉協議会ともにそれぞれが行う事業活動への参加にとどまっている。社会福祉協議会のボランティアは高齢化が進んでいることから、若年者の参加が待ち望まれる。また、いずれも個人ボランティアであることから、これを組織化し、高齢者の買い物支援や見守り活動、さらには災害時の協力等、さまざまな地域課題に対応できるよう活動を広げていくことが必要である。			

2 基本施策指標

指標	指標名	社会福祉協議会ボランティア登録者数					目標値（H29）
	定義等	登録者数					
指標 1	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						80人
	実績値		40人	43人	42人	42人	
	指標名						
指標 2	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
	指標名						
指標 3	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
	指標名						
指標 4	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
	指標名						
指標 5	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
	指標名						
指標 6	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
	指標名						
指標 7	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値（H29）
	目標値						
	実績値						
	指標名						

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	26年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策 への貢献 度
①	【再掲】社会福祉協議会補助事業	社会福祉係	10,800	A	継続/現状維持	A
②	【再掲】雄武町民生児童委員協議会運営補助事業	社会福祉係	53	A	継続/現状維持	A
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	誰もが互助の精神を持つことによって、誰もが安心して住むことができる町づくりにつながっていくことから、政策目標達成に向けた本施策は妥当である。
② 有効性	B	さまざまな団体においてボランティア活動が展開されているが、現状ではそれぞれ単独に目的を持って活動している。ネットワーク化や組織化を進めることによって、より一層効果が得られるものと判断する。
③ 効率性	B	政策目標達成には、地域福祉の組織的な担い手である社会福祉協議会とのさらなる連携による活動の広がりが必要である。
④ 公平性	A	すべての町民が互助の精神をもつことによって、誰もが住みやすい町づくりにつながることから公平である。
⑤ 町民意見の反映	B	社会福祉協議会がおこなうボランティア活動の中では、要支援者からの状況や近況の聞き取りをおこない、助け合いや支えあいにつながっているが、ボランティアの組織化若しくはネットワーク化により更に活動が広がるものと判断する。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
本施策は基本施策の達成に不可欠なものである。今後は社会福祉協議会等関係団体との連携の下、ボランティアの組織化、ネットワーク化に向けた取り組みの充実を図っていく必要がある。	同 左	

今後の方向性

継続/内容の見直し・変更	継続/内容の見直し・変更
ボランティア活動に若年者の参加が待ち望まれる。社会福祉協議会等の関係団体と連携し、多くの住民の方に地域福祉推進のため、ボランティアの必要性を理解していただくとともに、これを組織化し、さまざまな地域課題に対応できる組織づくり若しくはネットワーク化に向け取り組みを進める。	同 左

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止